

加奈陀モントリオールのアーサー・サーヴ
エイヤーはコラボレーティングエンジニアと
してまたウイコンシン大學教授ウオレン・
ジェー・ミード博士は地質及基礎の顧問として
この計畫に參與した

オベリスクによる假縮切方法は完く新らしい
ものなので、その研究には最も注意を拂ひ
その數理的解析の如きも左記の諸氏各個に研
究してその結果を持ち寄つたのである。

當社技師長ジー・ビー・ゲン、北米アルミナ
ム會社水力技師デー・ジェー・プレイファ
ス、カーネギ工業大學力學專任教授エヌ・シ
ー・リッグス、北米アルミナム會社リサーチ
ラバトリー技師アール・シー・ストラムの
諸氏。

(以上)

【編者附記】 新年號から前後六回に涉つて愛
讀を賜つた本稿は、一まづこれで打ち切ることに致
します。シユート・ア・キヤロン發電所は、本稿に説

第 20 圖 舊河床に於ける堰堤工事。



かれた如く、未曾有の縮切法によつてダムを築造
し、既に發電を開始したカナダに於ける有數の發電
所、その母體とも見られるシツプショ-發電所は目
下工事中でありまして、それ等に關する詳細な説明
及工事狀況寫眞等は、早晚筆者の好意によつて本
誌を飾ることにならうと存じます。尙筆者をアル
ミナム會社技師長と傳へたのは誤りで、氏は同社の
水力技師長であります。

最近受贈の

水に關する三名著(二)

發電水力工學

内務技師 萩原俊一著 常盤書房發行

牧彦七博士の主宰になる高等土木學叢書の第十五
卷として萩原氏の發電水力工學一冊が出版された。

萩原氏は内務省土木局の第一技術課に在つて既に
長い事、發電水力に關する技術的方面を擔當してあ
られる。本書は昨年氏の歐米視察後に編輯されたも
のであるが、外國の實例は少く、僅かに揚水式發電
所其他二三を擧げたにすぎない様だ。萩原氏の歐米
視察感ば『日本の發電水力工事は歐米のそれに比較
して、決して遜色のないものである。』と云ふ。

此は萩原氏の如く日本の在ゆる水力工事に精通し
た人でないと言へない事であらう。それだけ氏は日
本の發電水力工事の長所も短所も知り盡して居る人
である。それ故本書の内容は全日本の水力發電所の
大集成されたものと見てよいわけだ。

内容は概論、水量、落差、負荷貯水池及調整池、
取水堰堤、貯水堰堤、取水口、水路、沈砂池、調整
池及貯水池工事、水槽、調壓水槽、門扉類、水壓管、
發電所、水車、放水路、自働發電所、附録に分れ、
菊判 500 餘頁の中に大小の寫眞版や圖版を多數に
掲げ、讀むよりも見て知らせる様に編纂したもので
ある。近來會心の好著。